

高岡市総合計画審議会 第4回総括部会会議要旨

- 1 日 時 令和4年1月31日（月） 17時55分～19時05分
- 2 場 所 高岡市役所8階 802会議室
- 3 出席者 別紙のとおり
- 4 議 題 ①総合計画審議会第3回総会における意見等への対応について（資料No.1）
②総合計画第4次基本計画案に対するパブリックコメントの考え方等について（資料No.2）
③総合計画審議会第5回専門部会における意見等への対応について（資料No.3）
④総合計画第4次基本計画（答申案）について（資料No.4）

【各部会長から第5回専門部会の協議状況について発言】

《産業・文化・交流部会長》

- ・第5回の専門部会では、安全・安心部会にも関連する意見が多かった。
- ・働き方改革について、もう少し具体的に記載してもいいのではないかという意見や、女性が働きやすい環境づくりに取り組んで欲しいとの意見があった。射水市の方が女性は住みやすいとよく耳にするが、高岡市を選んでもらうため、女性に優しいまちになれば良いのではないか。
- ・空き家対策として、解体後の固定資産税の据え置きを行ってほしい、また、所有していた空き家をインターネットで販売したところ、大阪の方に購入していただいたことから、空き家を購入してもらうには、広く知ってもらうことが大切であるとの意見があった。
- ・パブリックコメントで意見された方の気持ちを尊重し、計画への反映欄の表現を工夫してほしいとの意見があった。
- ・シビックプライドは非常に大事で、まずは高岡をよく知って、好きになってもらうことが重要である。また、市民が住んでいることを誇りに思えるような高岡市になってほしいと思う。そのような取り組みを重点的に進めてもらいたい。

《ひとづくり部会長》

- ・放課後児童クラブについて、牧野地区の子育て支援、放課後児童クラブや認定こども園の充実を要望する意見が毎回出ており、第2期高岡市子ども・子育て支援事業計画で対応していくとのことであったが、計画の実施状況と実際のニーズに隔たりがあるのであれば、需要超過の解消に向けて積極的に取り組んでもらいたいとの意見があった。

- ・心の健康について、心のサインを見逃さないためにも、学校と専門家や関係機関が連携して、個別で対応していく必要がある。このため、子どもの居場所づくりや地域の良さを学ぶ教育、高岡で学び、育つことが誇りとなり愛着を持てるよう、また、自己肯定感を持てるような支援が必要との意見があった。さらには、子どもへの教育だけでなく、大人も学ぶ機会が必要との意見もあった。
- ・LGBTなどの社会的少数者について、様々な支援策や環境整備が必要との意見があった。
- ・若者まちづくり会議について、県の「とやまワカモノ・サミット」が参考になるとの意見があった。また、まちづくりに関連して、加賀前田家文化としてのPRや歩いて回れるまちづくり、地元商店街の活性化などに取り組むことで、子どもたちが地元への愛着を持ち、将来を担うひとづくりにつながるのではないかと意見があった。
- ・ひとづくりはまちづくりの基盤であり、一丁目一番地である。人生のあらゆる点において、行政と市民、企業や団体が協働し、幅広く切れ目のない支援をしていくことが究極のまちづくりにつながると感じた。

《安全・安心部会長》

- ・資料No.3のとおり、医療的ケア児や災害時における個別避難計画、防災士の登録数について具体的な意見があった。
- ・HbA1c（ヘモグロビンエイワンシー）のような専門的用語については、説明を記載すべきとの要望があり、計画には注釈を追加した。
- ・SDGsのアイコンについて、施策によっては、関係するアイコンがもっとあるのではないかと意見があったが、行政の取り組みは全てがSDGsにつながっており、アイコン全てを記載することにもなるので、関連の強いアイコンに絞って記載することで理解いただきたいとのことであった。
- ・最近、様々な事件が起きているが、行政だけでなく民間も安全・安心なまちづくりに取り組む必要があり、行政にはしっかりとフォローする体制を作って欲しいとの意見があった。

【主な意見】

《委員》

- ・県や他市町村も、基準となる人口を基に2060年の人口目標を設定しており、説明を聞いているとそこまで減少しないという安心感もあるが、実際には基準となる人口の60%程度になるのではないかと考えている。
- ・今の若い方は、実家があっても新しい家を建てていることから、数十年後には、かなりのペースで空き家が増えることが想定される。空き家対策として、補助金での支援に取り組んでいるが、解決できるのか心配な部分がある。

- ・新型コロナウイルス感染症の影響により、直近2年間は、各地域でイベントを実施しておらず、今年も実施しないことになる。来年、各地域でイベントを復活させようとしても、高齢化がさらに進むため、簡単に復活できないのではないか。市として、復活させるための具体的な案を考えていくべきではないか。

[市長]

- ・空き家が増加しているエリアはまちなかが多いが、戸出や中田でも空き家が出てきている。選挙時に、固定資産税を据え置きにする公約を掲げていたが、先進例である静岡県では、固定資産税を3年間据え置きにしても売れないことが多いと聞いたので、今後は、利活用やリノベーションに対する助成も検討しないと抜本的な解決につながらないと考えている。また、若い方が住みたくなるような古い家もあるので、古民家再生という観点から、若い方を対象とした助成制度も検討していく必要がある。
- ・高岡には、家と土地の持ち主が異なることや、境界線が分かりづらい部分もあるので、様々な課題を一つひとつ解決しながら、社会的実験も含め、高岡の空き家対策にとって、どのような取り組みが適切なのか検討していきたい。
- ・イベントの実施については、多くの団体等がコロナ禍で苦慮していると聞いている。自治会単位で行われているイベントについては、若い世代が入ってこないという現状もある。今後、多機能地域自治を自治会に導入していくには、若い方が地域づくりに参画できる仕組みを考えていくことが大きな課題である。また、マンパワーを増やすための取り組みについて、しっかり支援していきたいと考えており、先進自治体の研究等を進め、各地域における課題解決に向け、努力していきたい。

《委員》

- ・少子高齢化によって、組織の運営が大変な部分もあるが、新型コロナウイルス感染症の影響で、東京から地域に人口が流れていると言われている。市外から来られた方に、高岡は自然が豊かで素晴らしい場所ということを理解し、移住してもらい、その後、東京などの都市に情報を発信してもらえようような仕組みができれば良いと考えている。
- ・イベントを実施することは、人が集まる機会を創出することであり、人が集まるということは、次の新たな人を呼び込むことにもつながるので、全てのイベントを中止にするのではなく、高岡の良さを知ってもらい取り組みは必要である。

《部会長》

- ・先日、NHKで芸能人が本市の企業を訪れる番組が放送されていた。あるニュースでは、氷見市に移住された方が富山の話をしており、また、砺波市出身の有名ユーチュー

ーバーが、その業界で活躍するなどしている。高岡に有名なユーチューバーがいるのかわからないが、富山について発信されているテレビやYouTubeなどは見ることが多い。

- ・東京からの移住についても、関東圏で留まっており、地方にまで人が流れていないと聞くので、地方までの流れを作るもう一步踏み込んだ取り組みがあれば良いのではないか。

[市長]

- ・コロナの影響によって、働き方が変わってきており、軽井沢では20代から40代の方の移住が大変増えている。東京まで1時間半で行けることが理由の一つだと考えている。一方、東京とは北陸新幹線で繋がっていることが、高岡の強みだと考えている。富山駅から乗ると混んでいるが、新高岡駅からは自由席に座りやすいというSNSの投稿もあり、行政では発信できないような情報を若い世代が発信している。
- ・YouTubeについては、フォローしている人の数に関係なく、出演依頼があれば全て受けている。また、YouTubeに限らず、発信できる媒体は全て活用したいと考えている。
- ・先日、しっかりと感染症対策に取り組んだうえで、高岡なべ祭りを開催した。多くの方に感染症対策に努めていただいたことで、まちなかに賑わいを生み出すことができた。参加者から、子どもに高岡の風物詩を感じさせることができたことのご意見もいただき、なべ祭り実行委員会にも伝えた。イベントは、まちなかを知る良い機会であり、人と人が触れ合える機会でもあるので、感染症対策に努めながら、高岡御車山祭を含めたイベントが実行できるよう市としても支援していきたい。

《参与》

- ・新型コロナウイルス感染症が、地域を衰退させているということは事実であり、私の地域でも3年間行事が実施できないため、伝統文化が衰退している。
- ・伏木のけんか山や高岡御車山祭、中田かかし祭りなど、地域に根付いてきた行事を実施し、地域のきずなを深めていくことが大事である。
- ・まちづくりは難しい部分も多いが、できることから始めることが重要である。

《参与》

- ・パブリックコメントの説明において、多いので省略するとのことであったが、12名27件が多いと思っているのか気になった。また、市の考え方欄については、固い表現になっており、市民の心に響かないのではないか。
- ・シビックプライドが大切というのは同感であり、高岡の良さや強みを改めて考え、集中的に支援することで、県外の方に高岡を選んでいただけるのではないか。今後は、メリハリのある投資が必要になってくる。

- ・先日、移住・定住施策に集中的に取り組んだことにより、人口が大幅に増加した地域があるとテレビで放送されていた。そのまちでは、行政だけでなく、そこに住んでいる人たちが、一生懸命取り組むことが一番の解決策と言っていた。実際に住んでいる人たちが、自分たちのまちを良くしようという気持ちを持つことが、人口減少に歯止めをかけることにつながるのではないかと思う。

[事務局]

- ・事務局からのパブリックコメントの説明が多いので省略するという発言については、本日の会議の時間の中で説明するには、資料の分量が多いという意味でご理解いただきたい。
- ・パブリックコメントについては、何件いただいても多いということはないので、ただだけの意見はいただきたい。今回、総件数は多くないが、SNSやメール、電子申請など意見の応募方法が多様化したことから、年齢層や地域的な広がりがあったものと考えている。今後も様々な手法を用いて、皆様からご意見をいただく方法を考えていきたい。
- ・市の考え方欄の表現について、例えば、地域のイベントは、守っていくべきもので地域の活力の源であるという意見もあれば、祭礼行事やイベントへの支援について否定的な意見も寄せられている。いただいたご意見には、個人的な視点からのものや、置かれた立場によるものなども少なくないので、行政としては、中立的な記載での回答を今回心掛けたことをご理解いただきたい。

[市長]

- ・人口が増えている地域の首長と意見交換することがあるが、市役所が旗を振っていないと必ず言われる。市役所はあくまで環境を整える後方支援の役割である。地域や企業の皆さんが自分の住みたいまちを創るうえで活動され、それを支援するのが市役所であることを心に留めながら、意見交換をさせていただいている。
- ・シビックプライドは、ゼロから作り上げていく必要はないと思っている。四百数十年というこれまでの高岡の歴史の中で、シビックプライドは高岡にあるはずなので、今を生きる大人が責任を持って、次の世代に渡していけるような形のシビックプライドの醸成を目指していきたい。
- ・パブリックコメントの表現が固いとのことご意見をいただいたが、市民一人ひとりと市職員が直接向き合うときには、自分たちの言葉で接していくよう職員に伝えていきたい。これまでは、市民に関心を持ってもらえるよう、パブリックコメントの応募の手法を多様化してきたが、今後は、パブリックコメントを示す内容について、市民が見やすくなるように心掛けていきたい。

《委員》

- ・射水市に住みたい、子育てしたいという若い女性が多い理由を考える必要があるのではないかと。制度や実施していることは、法律に従っているので大差はないが、子ども・子育て会議においても、制度があっても知らないという意見があった。
- ・先日、学生たちに、制度や施策があることの意味合いについて、親御さんにインタビューしてもらったところ、制度などがあると安心するが、使うかは別問題という意見があった。制度や施策があることをきちんと市民に知らせるとともに、使っているからニーズがあるという使うニーズではなく、あることによる安心のニーズというものがあるので、その部分を把握しないといけないのではないかと。
- ・同じ制度や施策に取り組んでいるが、射水市が評価されるのは、情報発信と窓口の対応の差が大きいのではないかと。行政が「してあげる」や「します」というのではなく、一緒に悩む窓口対応というのも人間味や温かみが表れており、対応の仕方一つで変わってくる。そのような対応の仕方が、介護やいろいろな場面において、支えられているという感情になってくると思う。市民に慕われ、頼りにされる窓口について、安全・安心部会の施策の中にあるので、具体的な取り組みの中で対応していったほしい。

[市長]

- ・高岡市と射水市で実施している制度や施策については、それほど大差はなく、足りないのは情報の発信力であると感じている。情報発信は大きな課題なので、今後もしっかりと取り組んでいかなければならないと考えている。情報を発信していくことと、制度を確保していくことの両面で取り組んでいきたい。
- ・ニーズが多いということは、必要な情報が届いているということであり、ニーズが少ないということは、情報が届いていないということである、という視点を持ちながら、事業の選択と集中に取り組んでいかなければならないと思っている。
- ・窓口対応については、毎年10月にさわやか窓口月間を実施しており、今回は、私自身が市民の皆さんにアンケートを配布し記入していただいた。これまでは、全て「普通」と回答されていたが、Webでも回答していただけるようになったところ、「良い」と「悪い」の評価が両極端に表れた。「悪い」という評価については、すぐに情報を共有し、改善すべき部分は改善させていただいた。
- ・市長就任後に、これまで窓口担当課以外は、昼休みになると真っ暗であったが、昼休みも電気を点けさせていただき、いつ市民が来ても窓口対応ができるようにした。窓口対応の職員には、市役所の最前線において、市民と触れ合う職員であるという気概を持って、働いてもらえるように改善していきたい。

《委員》

- ・射水市が良いというのは評判である。財政問題以降、高岡にはお金がないという人が

多いが、財政問題が改善しているのであれば、大きく旗を振り、高岡を前へ進めてはどうか。今こそ高岡の底力を見せてほしい。評判は大事だと思う。

[市長]

- ・財政健全化緊急プログラムが始まってから、「お金がない高岡市」という不名誉な形容詞がついている。一日も早く払拭し、高岡は、市民に寄り添い、市民の望む形に変わっていくという旗を振れるよう、精いっぱい努力していきたいと考えている。
- ・お金がなくてもできることは必ずある。市民の皆さんには、市役所が必ず支えてくれると思ってもらえるようなまちとなるよう努めてまいりたい。また、市民だけでなく、企業にも思ってもらえるように様々な支援に取り組んでまいりたい。

《部会長》

- ・長く総合計画に携わってきているが、射水市の名前が審議会でこれほど出たのは初めてであり、高岡の底力を見せようという流れになっている気がする。約400年前に前田利常公が金沢に引き上げてしまった後、まちのことは町衆がやってきた。地場産業などで富山県をリードしてきたという歴史があることから、前田公が高岡市民に課した歴史の宿題だと思っている。「市民創造都市 高岡」というキャッチフレーズには、市民の力が表れている。この計画が、高岡の底力として、市民が高岡で住み、学び、働くことに自信と誇りを持つことにつながっていけば良いのではないかと思っている。
- ・提示していただいた計画案で概ね了承いただけたと思うが、もう少し市民に伝わるような表現を心掛けてもらいたい。
- ・次の総会は、書面での開催と聞いているが、書面の場合、いろいろと意見が出るかもしれないので、しっかりと確認し、回答していただきたい。

[市長]

- ・前田家からの宿題というご発言があった。高岡の発展には、私たちがしっかりと成し遂げていかなければいけない大きな宿題がある。他市と比べられるのではなく、高岡の底力を見せることができるよう、令和4年度のスタートを切ってまいりたい。そのためには、この総合計画が私たちの指針になるので、これまでいただいた意見をしっかりと受け止めさせていただき、皆さんと共に「市民創造都市 高岡」の実現に向けて歩んでまいりたい。